



「DO YOU KYOTO?」ロゴマーク

月刊

あじenda 12月

みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です



京のアジェンダ21フォーラム事務所

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター2F 活動支援室内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbbox.kyoto-inet.or.jp

開室時間: 8時45分～17時30分(木・日休室)

アクセス: 京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ

幹事リレーコラム

温室効果ガス大幅削減に向けて、フォーラムはどう取り組むか

フォーラムでは 2009 年度事業として、温室効果ガス大幅削減（京都市の環境モデル都市行動計画では 2030 年までに 90 年比 40%削減、2050 年までに 60%削減）実現に向けた「中長期展望の策定と、そのための具体的な方策の検討」プロジェクトを、フォーラム幹事の参加のもと実施しています。フォーラム設立 11 年目を迎えた今、社会の地球温暖化防止についての意識が高まり、各主体による取組も活発にされるようになってきています。国も 2050 年までに 90 年比で温室効果ガス 80%削減目標を打ち出しました。このような社会情勢の変化に合わせて、フォーラムのあり方、活動内容や方法も見直していく必要があります。

そこで、このような背景を踏まえて、プロジェクトにご参加いただいている幹事に、望ましい京都の未来像を目指すに当たってのフォーラムの今後の役割、あり方などについて、寄稿をお願いしました。第 1 回目は、内藤正明フォーラム代表です。

【イラスト：京のアジェンダ 21 フォーラム入会案内「京のアジェンダ 21 フォーラムが目指す京都!」より】



第 1 回 「組織を拡充し、フォーラムをエコ大変革の拠点に」

京のアジェンダ 21 フォーラム 代表 内藤正明

(京都大学名誉教授・特定非営利活動法人循環共生社会システム研究所 代表理事)

アジェンダフォーラムは発足以来 11 年がたち、この間には多くの困難に遭遇しながらも活動を続けて今日に至っている。困難の一つは、フォーラムを取り巻く外的な状況の変化である。つまり、フォーラム活動が主目的とする二酸化炭素の削減目標が、世界における温暖化議論の進行と共に、当初の 10%から急激に引き上げられ、いまでは 50%とか 80%といったレベルになったことである。これは例えてみれば、走り始めてスピードが上がらない間に、ゴールの方がどんどん遠ざかるといった状況か。これではランナーは戸惑い、なかなか力が入らないだろう。

自画自賛を許していただければ、私は COP3 直後の朝日新聞のコラムに、“京都会議では、CO2 削減の目標値を、通産省の 5%案と環境庁の 7%案とが綱引きをし、米国は 0%削減を主張して国際的に厳しいやり取りが展開された。しかし問題は、地球危機を回避するために「すべき削減」レベルと、現在の経済成長を維持しつつ「できる削減」レベルとの差が余りにも大きい点にある。本当に温暖化を止めるには、全世界で 60%近い削減が必要とされ、それは日本にとっては 80%といった削減値になる。このことを想定し、「京のアジェンダ」では、交通体系や産業・エネルギー構造の変革などを含む意欲的な

重点取組を提言している。”と書いた。

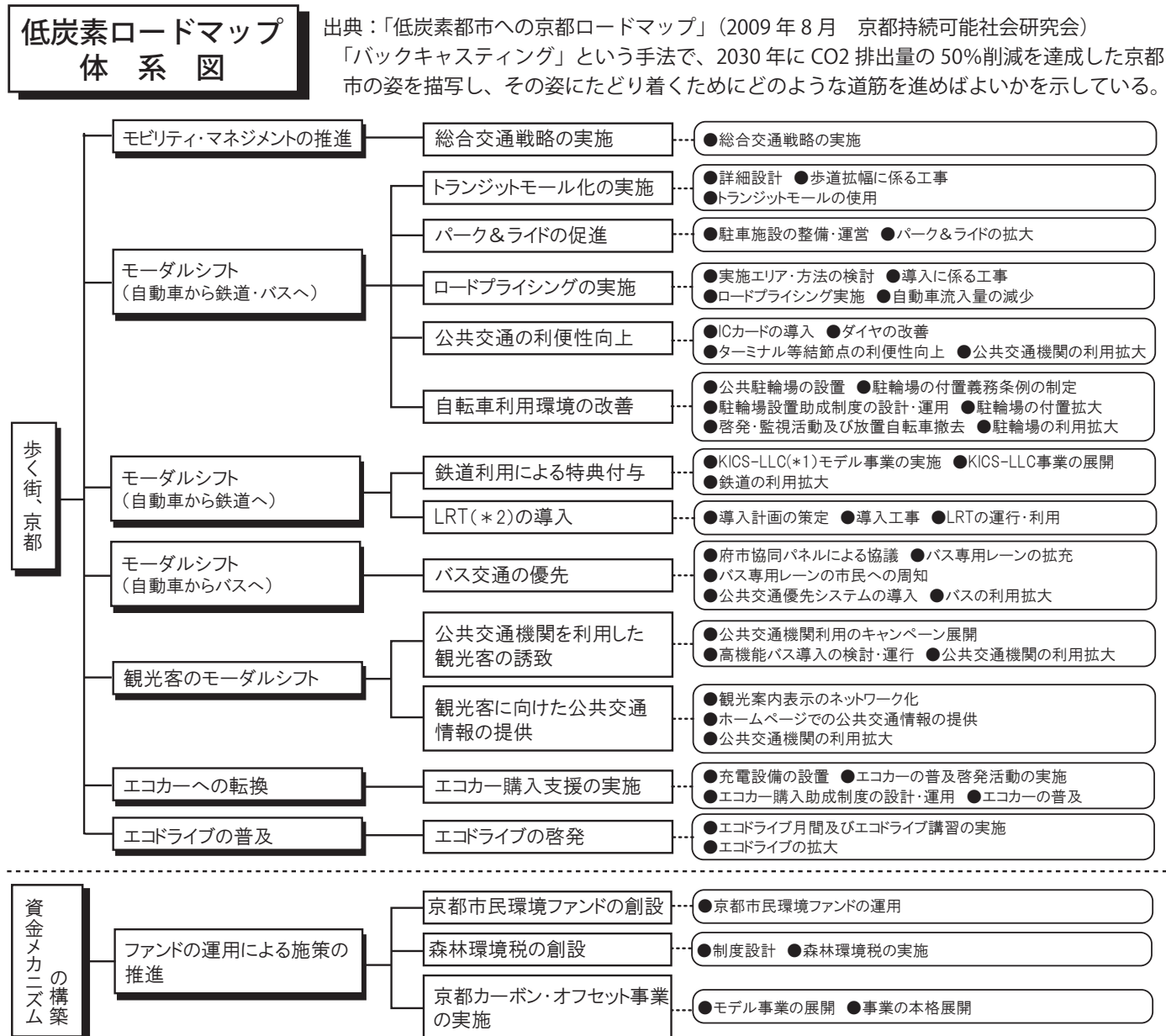
しかし京都会議後の 10 年は、我が国では本気で取り組まないための理由を探して、前向きな行動を避けてきた。ヨーロッパに上手くはめられて割を食ったとか、他国がやらないのになぜ日本が頑張る必要があるのかといった、後ろ向きの議論に終始し、財政的にも法制度的にも、温暖化防止の推進に資する本格的な行動を取らなかった。国がそのようであれば自治体も動かないし、動けない。したがって当フォーラムも、当初のような大きな提案を、具体的に進めていくことにならなかったのも当然であろう。

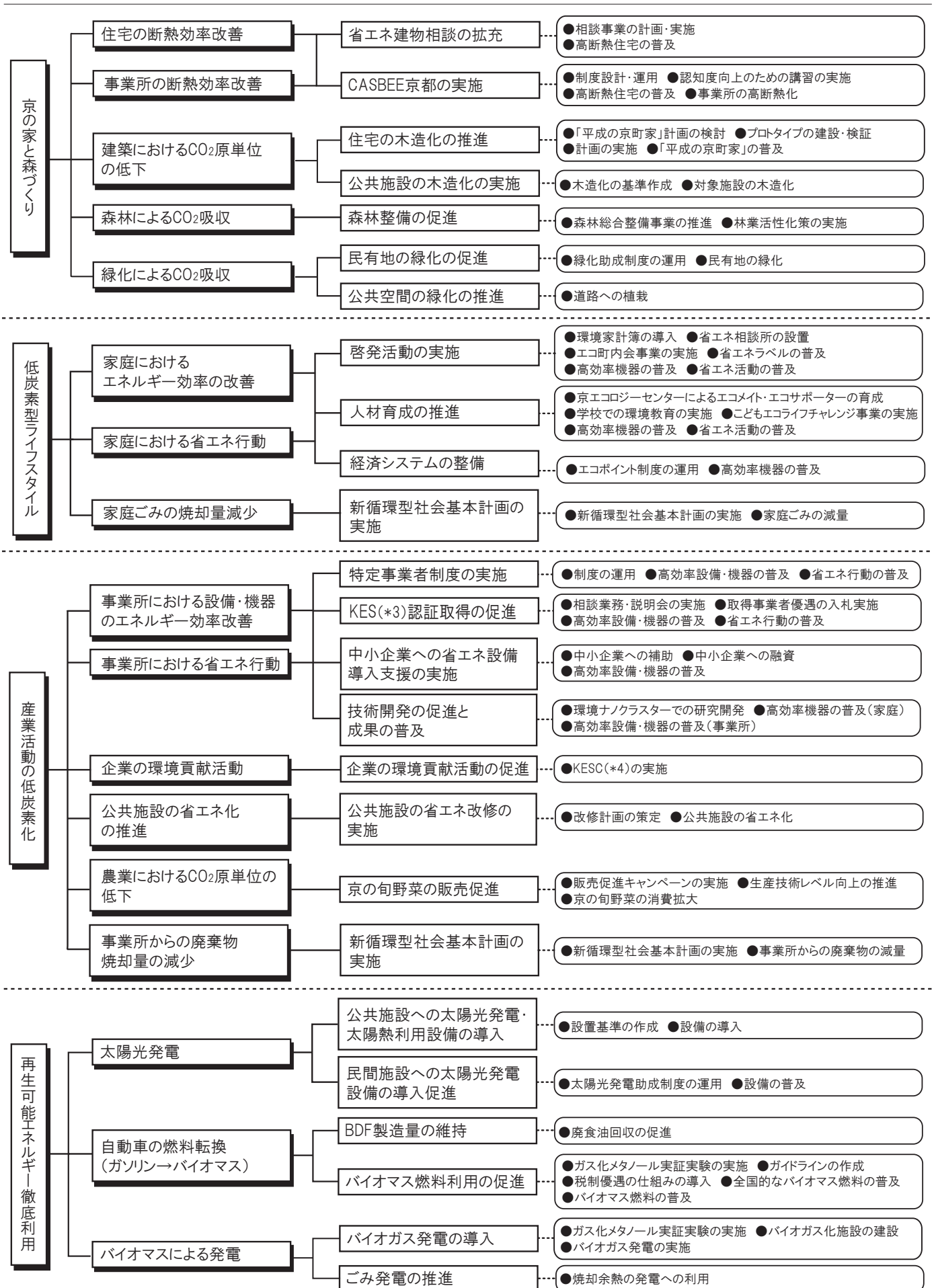
しかし、いよいよ温暖化議論が進展して世界が大幅な削減を言い始め、日本もようやく新政権になって、25%という提言がなされ、それがようやく定着しつつある。京都市でも、「環境モデル都市」（これは旧政権時代の決定）を目指すことになり、2030 年に 40%削減といった目標が打ち出された。これに対応するには、まさに当初からアジェンダが提起してきた社会の構造改革なしにはありえないと思われるので、いよいよアジェンダフォーラムの本格的な出番である。(2 ページにつづく)

とはいえ、このような次元の社会変革施策が市民の身近な活動だけで出来るはずがなく、市民、自治体、事業者などが一体となって、社会の根本的な変革を指向してはじめて可能である。幸い、アジェンダフォーラムは単なる市民団体ではなく、行政や事業者とも一体となって発足し運営されてきた、日本では稀な組織なので、このような事態に対応するには本来ふさわしい成り立ちを持っているはずである。ただ当初は、“足元からの活動”が主な役割と考えてきたため、その体勢もボランティア活動の域を大きくは出なかったし、その後もそれほど大きくは拡充・発展していない。このような体勢で社会の大変革に挑戦するには困難があるだろう。たとえば、脱温暖化に決定的な役割を持つ、「あるくまち・京都」の計画が市を挙げて推進されようとしている状況の中で、アジェンダの役割はその仕事のどの辺りを担うのか。恐らく、ライフスタイル変革やその推進のための市民行動の一部を担うのが役割となるのだろうが、本来はさらに大きな仕事をしたいと考えていたはずである。

これ以外の様々な政策についても同様に、改めてこの時点で“持続可能な社会への変革”という最終目標の、どの部分をどのように担っていくかを明らかにするのは大事ではないか。モデル都市を目指すための政策全体の体系図として、現時点で仮作成された政策構造図を参考までに引用する。このような体系チャートを基に、アジェンダ諸活動を位置づけるのはどうだろう。これによって、参加者それぞれの活動が最終的にどう脱温暖化社会づくりに繋がるのかが理解され、それによって効果的な役割分担が認識され活動意欲も湧くと思われる。

しかし、組織が現状の規模と形のまま行くのなら、この体系図の中のごく一部を担うに留まるかもしれない。折角、多様なセクターが参加する、他に例のない仕組みを持つフォーラムなので、これを思い切って拡充し、これからのエコ大変革の拠点にすることを考えてはどうだろう。兵力の逐次投入は戦術としては最悪であると言われる。





*1 KICS-LLC：合同会社きょうと情報カードシステム

*3 KES：KES・環境マネジメントシステム・スタンダード

*2 LRT：Light Rail Transit

*4 KESC 活動：京都環境コミュニティ活動

○「家庭の省エネ相談所」開設

【実施結果】

11月16日（月）伏見区役所 相談者数 35名 アドバイザー・研修生 6名
11月17日（火）深草支所 相談者数 33名 アドバイザー・研修生 10名
11月25日（水）カナート洛北 相談者数 36名 アドバイザー・研修生 5名

今月も、省エネ普及ネット・京都のご協力をいただいて開設しました。9月に開催した「家庭の省エネアドバイザー養成研修会」の受講者にも、研修生として多数ご参加いただきました。

カナート洛北では、京都市ごみ減量推進会議が主催する「地球にやさしい暮らし方を学ぼう！」キャンペーンの一環として相談所を開設しました。京都市ごみ減量推進会議、京都グリーン購入ネットワーク、京都市環境政策局環境企画部環境管理課とともにブースを出し、お客さんにスタンプラリー方式で各ブースを回っていただきました。普段のようにフォーラムだけで開設するよりも賑やかで活気があり、アドバイザーや研修生は、お互いに助け合いながらチームワーク良くアドバイス活動をされていました。

【写真 上：伏見区役所 下：カナート洛北
「地球にやさしい暮らし方を学ぼう！」キャンペーンの様子】



○ 京都環境フェスティバル 2009

【11月21日（土）、22日（日） 京都府総合見本市会館（パルスプラザ）】

京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクトの交通環境学習チーム、自然エネルギー環境学習チームが、それぞれ環境学習を実施しました。（詳しくは5ページ、6ページ参照）

○ 第17回伏見西部ふれあいプラザ 【11月23日（月・祝） 京都競馬場「みどりの広場」】

「環境コーナー」に、京都環境コミュニティ活動（KESC）プロジェクトの各チームの有志が出展しました。

京都市立洛陽工業高校所有の手回し発電機は、子どもから大人まで、多くの市民の皆さんに楽しみながら体験していただきました。門川市長にも試していただきました。

株式会社ホンダカーズ京都のハイブリッドカー・インサイトや、三菱自動車株式会社の電気自動車 i-MiEV のエコカー展示も好評で、市民の皆さんは興味深そうにシートに座ったり、ボンネットの中をのぞいたりされていました。

【参加事業者】

- ・有限会社森田電設
- ・京都市立洛陽工業高校
- ・株式会社ホンダカーズ京都



【写真 左：手回し発電機（京都市立洛陽工業高校所有）を回す門川市長
右：エコカーの展示も好評】

京都府総合見本市会館(パルスプラザ)で開催された「京都環境フェスティバル 2009」にて、京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクトの交通環境学習チーム、市民共同おひさま発電所づくりチームが、それぞれ環境学習を行いました。



かご
【駕籠とクルマを比べてみよう】



【元気にクイズに答える子どもたち】

交通環境学習チーム

ワークショップコーナーにて環境学習を実施

交通環境学習チームは、ワークショップコーナー「こどもエコクラブ交流会」にて、子どもたちや保護者、先生、一般の方約 50 名に対し、環境学習「地域で働く人達と『くるま』について考えよう」を実施しました。

地球温暖化が起こる仕組みや、クルマと地球温暖化との関係、参加事業者が取り組んでいる、なるべく CO2 の排出量を少なくするようなクルマの使い方、選び方などを伝えました。

様々な学年の子どもたちの注意を惹き付けるため、江戸時代の駕籠などの小道具も登場し、環境クイズをするなどの工夫を凝らしました。子どもたちはクイズの答えを真剣に考えていました。

見に来られていた方から、「皆さん、上手いですね」というお褒めの言葉をいただきました。

【実施メンバー】

チームリーダー 小野 淳一(株式会社ホンダカーズ京都)

メンバー(順不同): 筑波 聖之(株式会社ホンダカーズ京都)、山沢 邦良(株式会社エコロ 21)、長屋 博久(有限会社村田堂)

○ 株式会社ホンダカーズ京都「社会活動地域貢献大賞」(近畿ブロック大賞) ○

今年度の交通環境学習チームリーダー事業者・株式会社ホンダカーズ京都が、本田技研工業株式会社より、「社会活動地域貢献大賞」(近畿ブロック大賞)を受賞されました。KESC 交通環境学習チームの活動で、市内の小学校での環境学習を活発に実施されたことが評価されての受賞です。受賞により、2010 年 2 月に、交通環境学習チームが 2007 年度に初めて環境学習を行った朱雀第四小学校(中京区)にて、自律二足歩行ロボット「ASIMO」を使った特別授業が実施される予定です。

カレンダー

Agenda Forum

今後の活動予定

家庭の省エネ相談所

12月16日(水) 醍醐支所【10:00～14:00】

2010年

1月15日(金) 東山区役所【10:00～14:00】

1月18日(月) 左京区役所【10:00～14:00】

3月16日(火) 南区役所【10:00～14:00】

京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクト

*自然エネルギー環境学習チーム 出前環境学習

2010年

1月28日(木) 京都市立藤ノ森小学校

*交通環境学習チーム 出前環境学習

2010年

2月5日(金) 京都市立朱雀第四小学校

2月22日(月) 京都市立南太秦小学校

*市民共同おひさま発電所づくりチーム
環境学習紙芝居、自然エネルギーおもちゃの実演

12月9日(水) 社会福祉法人京都地の塩会
つくし保育園【10:30～】

2010年

1月21日(木) 社会福祉法人向島保育園
【10:00～11:00】

* 年末年始の休室 12月27日(日)～1月4日(月) *

紙芝居と自然エネルギーおもちゃを実演

寄稿：山本 龍太郎さん

(市民共同おひさま発電所づくりチームリーダー 公栄運輸株式会社 代表取締役)

2009年11月21日(土)、22日(日)の午前10時から午後4時までの間、京都府総合見本市会館において、「京都環境フェスティバル 2009」が開催されました。京のアジェンダ 21 フォーラムの京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクトの市民共同おひさま発電所づくりチーム(略称：おひさまチーム)も、22日にこの催しに参加致しました。

今回の催しでは、おひさまチームは、京のアジェンダ 21 フォーラムのブースで、太陽光で動く玩具を持参し、幼児達に、太陽という自然エネルギーで物が動くということを知ってもらえるように努めました。また、地球温暖化を題材にした環境学習紙芝居「スーパータヌキの環境ケン」及び「白クマのコロスケ」の2作品を上演しました。この紙芝居が、幼児達に本当に受け入れてもらえるのかどうか心配していましたが、幼児達と掛け合いをしながら大変好評だったので、我々チームメンバー全

員、安堵しております。

今後の活動計画として、12月9日(水)に、伏見区醍醐のつくし保育園で、年明けの1月21日(木)には、伏見区向島の向島保育園で、環境学習紙芝居の上演を予定しております。

地球温暖化防止に対する地球規模の対策の必要性が叫ばれる今日、おひさまチームは、少しでも環境保全のため、積極的に協力及び参加出来るチームとして、これからも、子ども達が環境に対する考え方を分かりやすく体験出来るシステムの構築に取り組み、また、子ども達が環境に対する関心を持ち続けていけるよう、努力して参りたいと考えております。



【市民共同おひさま発電所づくりチームの皆さん】



【紙芝居実演の様子】



【実施メンバー】

チームリーダー 山本龍太郎(公栄運輸株式会社)

メンバー(順不同): 笠井文雄(公栄運輸株式会社)、川阪益造(京都電測株式会社)、竹田利幸(科研製薬株式会社)、芝田春雄

京都環境コミュニティ活動(KESC)プロジェクトの活動の見学を希望される方は、フォーラム事務所までお気軽にご連絡ください。(ご連絡先: 1 ページ右肩面参照)

事務局短信 今号では増ページをして、内藤代表からの寄稿内容に関連して「低炭素都市への京都ロードマップ体系図」を掲載しました。歩くまち京都などの取り組みが進んだ、エコな京都の姿について想像してみませんか。(西本雅則) / 最近のストレス発散法の一つはリフレクソロジー(足裏マッサージ)に行くこと。あまりの気持ち良さとうとうします。お世話になっている NPO の方が最近ロミロミ(ハワイ式マッサージ)を始めたので、行かせてもらうのが楽しみです。皆様も年末、それぞれのストレス発散法で疲れを取ってください。(小山直美) / 本格的な冬がやってまいりました。最近、若い人の中には、部屋では薄着して暖房をする人がいるようですが、「着込めば暖房なんかなくてよいのに!」と注意したくなります。私の場合、寒さへの対応は…そこで一句、「冬仕度まずは土鍋の包みとく」、鍋で暖まっています。(小西賢人)